

令和6年度第1回江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

【日 時】 令和6年5月28日（火） 14時30分～16時00分
【場 所】 江差町役場3階 第2委員会室
【出席者】 委 員：出席12名、欠席4名 代理出席者：1名 同行者：1名 事務局：3名 事務局支援：1名
【議事次第】 1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 題 (1) 委員の変更報告について (2) 令和5年度江差町地域公共交通活性化協議会事業報告及び決算報告について (3) 江差マース本格運行に係る運行方針について (4) 令和6年度第1回江差町地域公共交通活性化協議会分科会（専門部会）における協議結果について (5) 令和6年度江差町地域公共交通活性化協議会補正予算（案）の提案について (6) 江差町地域公共交通計画における事業評価手法について (7) 江差町地域公共交通計画の変更について 4. 閉 会
【会議要旨】 1. 開 会 ○ 事務局にて進行（委員出席者が過半数を超過しているため会議成立宣言）。 2. 会長挨拶 ○ お忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。 ○ 本日は、今年度最初の開催となる。 ○ 本日の協議会では、前年度の事業報告及び決算報告を行った後、協議事項として、今年の夏から本格運行を見据えている「江差マース」の運行方針について、また、それに伴う補正予算案、江差町地域公共交通計画の一部変更について、こちらの内容をメインにお諮りさせていただく予定。 ○ 限られた時間にはなるが、忌憚のない意見をいただければと思う。 3. 議 題 (1) 委員の変更報告について ○ 田畑会長から「資料1」により4月の人事異動で変更となった委員を紹介。 (2) 令和5年度江差町地域公共交通活性化協議会事業報告及び決算報告について ○ 事務局から「資料2～3」により説明後、監事の中島委員から「資料4」により監査結果について報告。 （※異議等なしのため、「資料2」～「資料4」のとおり承認）

(3) 江差マース本格運行に係る運行方針について

(4) 令和6年度第1回江差町地域公共交通活性化協議会分科会（専門部会）における協議結果について

- 事務局から「資料5」～「資料6」により説明。
 - ・ 令和5年度は、11月から2月までの期間で、平日週5日、江差町全域での実証運行を実施。
 - ・ 運行日数は68日間、延べ乗車人数は660人、平均乗車人数は1日あたり9.7人となった。
 - ・ 本格運行開始時は、月曜日・火曜日・木曜日の週3回運行としたい。運行を委託している桧山ハイヤーをはじめとする関連事業者と協議を重ね、持続可能な運行体制の構築を優先として進めていく。
 - ・ 運行曜日は、実証運行の際に乗車人数が多かった曜日に設定している。
 - ・ 運行時間について、江差病院への通院で利用される方からの早期化の要望に応える形で、開始時間と終了時間をそれぞれ30分ずつ早めている。運転手の休憩・交代時間の確保に伴う運休時間も、実証運行から時間帯を変更し13時から13時半としている。
 - ・ 引き続き町内全域を運行する形をとるが、公共施設における追加要望や地域バランスを考慮し、尾山町「ぬくもり温泉」・大洞町「大洞寿の家」を追加。また、旧江光ビル跡地に「コミュニティプラザえさし（エコー）」が供用開始となり、江差BASEプラス1がエコーへ内包されることから、既存の乗降地点「江差BASEプラス1」を「コミュニティプラザえさし・エコー」と改称する。
 - ・ 運賃設定について、一般運賃や福祉割引運賃等に変更はないが、中高生の利用促進を図るため、新たに学割を設定し、学生証の提示により運賃を一律200円とする。
 - ・ 令和5年度は11月と2月にイベント限定運行を実施した。具体的なスケジュールは今後調整していくが、本格運行開始後も、普段乗る機会のない方にも乗っていただけるよう、積極的に開催していく予定。
 - ・ 令和5年度に、図書館の貸出図書を対象に実施していた貨客混載について、本格運行開始時は実施見送りとさせていただく。実証運行での利用実績が伴わなかったことや、しっかりと人の移動のニーズに応じていく運行体制の構築を最優先とする。
 - ・ 運行日数の拡大や乗降ポイントの追加については、町民・事業者のニーズを把握し、それぞれ拡大・追加に向けて本格運行開始後も検討していく。
 - ・ 本格運行に係る予算については、補正予算として15,169,000円を上程する予定。
 - ・ 本格運行開始以降、国土交通省「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」を充当予定。本補助金の補助年度が前年10月から9月となることから、令和6年度運行に係る補助金は、8・9月の2か月分が交付される。
 - ・ 本補助金の交付時期は年度末から年度明けになることから、昨年度同様、江差町の負担金により事業を実施し、補助金の交付後に負担金の残額と合わせて江差町に戻入するという処理を行う。
 - ・ 補助金の申請内容については6月に書面によってお諮りする予定。
 - ・ 6月から7月にかけて、各契約や周知活動を行い、8月1日（木）から江差マースの本格運行を開始する予定。
 - ・ 周知活動については、説明会や試乗会の開催、広報誌への掲載のほか、主催するものに限らず、既存の集会等へも積極的に参加し、一人でも多くの方に江差マースの存在を知ってもらえるよう努める。
 - ・ 若者世代への周知強化のため、出前授業の実施や目に留まりやすいSNSへの掲載なども行っていく予定。

- ・ 5月14日（火）に本協議会の分科会である専門部会を開催し、江差マースの本格運行方針について協議したところ。週3日の運行についてご理解をいただき、日数の拡大について、利用状況等を勘案しながら年度内に協議を行い、方針をお示しする旨説明。

【以下、質疑等】

①－１（小野寺委員）

- 本格運行までの経緯で多くの方が苦勞されて取り組んでこられたと思う。NPO や町内会の立場から関わってきたなかで、スモールスタートという表現は気になるが本格運行となることは喜ばしい。そのうえで3点ほど、これからより推進していくために意見を申し上げたい。
- 実証実験中からも感じていたが、まだまだ江差マースの地名度は低いと感じる。実証運行が終了したことを知らなかったという方もいれば、町内会でも利用方法がわからないという方も多くいる。利便性も含めて知られていない中での、令和5年度の実績であったと思う。本格運行するにあたって、マースの利便性を分かりやすく、ワンフレーズツーフレーズで説明していく必要があると感じる。
- 今後の検討事項にも記載されているが、運行日数の拡大について、是非力をいれていただきたい。週3日運行では、週3日運行なりの実績やニーズしかでてこないと思う。本来のニーズを吸い上げる手法についてはしっかりと検討してほしい。
- 乗降ポイントの追加について、行きたいところに行けるというのが 本来のマースの在り方だと思っている。地域バランスを踏まえたところがあるが、行きたい場所が多くあるのであれば、同一地域に多数のポイントがあっても構わないのではないかと。乗降ポイントが増えることによる何かしらのデメリットがあるのか。ポイントが増えれば、マースとしてはプラスになると思う。NPO では、寺院、理髪店に行きたいという声が多く聞こえてくる。利用者増加にもつながると思うので、ニーズを拾い上げて是非実施してほしい。
- 使いやすさをいかに簡潔に伝え、試乗してもらうなどの手法によって、便利だと感じる人が少しでも増えれば、口コミ的に利用者は増加すると思う。そのほかに、新聞やテレビ等にも積極的にでていくなどの取組みを通じて、大きな盛り上がりのなかで本格運行を開始してほしい。

①－２（事務局）

- 運行日数の拡大については、町民の皆様の利便性確保という面からも、より多くの日数で運行してほうがよいということは承知しているが、確実にマース事業を成功させていくという観点から、運行事業者とも協議を重ねていき、週3回の運行であれば間違いなく対応できるということで、今回このような方針とさせていただいた。将来的な運行日数の拡大については当然事務局としても想定しているので、そういう方向で事業者とも協議を重ねていきたい。ニーズの吸い上げ方法の懸念点もご意見いただいたが、あらゆる機会を通じて、利用者・町民のニーズを吸い上げる努力をしていきたいと思っているので、ご理解いただければと思う。
- 乗降ポイントの追加について、基本的には町民の要望を踏まえた形で、追加の検討を進めていきたいと考えている。先ほど寺院や理髪店といった箇所の追加要望があるという話もいただいた。今後どのようなカテゴリーを増やしていくのかという点について、町民のニーズを整理しながら、前向きに検討していきたいと思う。今回のスタートからそういった追加の対応は難しいが、住民のニーズを拾いあげながら、次年度の見直しの部分で反映していきたい。
- 昨年も様々な機会を通じて説明会や試乗会という対応を取らせていただいた。なかなか周知が行き届いていないというご指摘もいただいたが、事務局として反省すべきは反省

し、どのような形できめ細かく周知していくか、課題としてとらえて対応していきたいと考えている。また、町内会とも連携した周知を行いたいと考えているので、そちらについても是非ご協力をお願いしたい。

①－３（田畑会長）

- 現時点で町外事業者には運行をお願いする予定はなく、町内の事業者にも少なからず利益があがり、かつ安定した運行という点についてはマースの出発地点からあった。結論からいうと、やはりネックになるのが運転手の確保。毎日運行となると、やはり運転手不足というところに行きついてしまう。事業者として大丈夫だという状況が生まれることで、運行日数の拡大に近づけるという点はご理解いただきたい。
- 乗降ポイントについてもおっしゃるとおりで、寺院や理髪店もそれなりの数があるなかで、少なからず、近い場所には乗降地点を作ってマースが運行するわけだが、一定程度離れた寺院や理髪店もあるということも含めて、事務局としても問題意識は持っている。8月の運行開始時には本日説明したとおりの運行として、そのうえで、次年度の見直しの際は乗降地点を増やしていく方向で整理していきたい。
- 様々な会合の場に出席しPRに努めていくということを肝に銘じ、本日出席いただいたみなさまを筆頭に様々な人と連携しながら周知を行いたい。指摘にもあったとおり、マースってどういうものなのかと疑心暗鬼になっている方もいらっしゃると思うので、説明方法にテコ入れをしつつ、イベント等でみなさんに使っていただくということも行っていきたい。本格運行までにすべてが整うという状況にはならないが、本格運行開始後も継続して周知に努めていきたい。

②－１（田畑会長）

- マースの基盤として、バス路線を補完するために町内を巡行するデマンドであるというものは当初から設定している。路線バスを使っていたが、マースを使用するようになるということも少なからず出てくると思うが、路線バスは町内だけを走るものではないので、江差だけの事情でバスの増減便ができるわけではないが、こういった動きが少しずつ管内でも出てくると思われるので、ご承知おき願いたい。

（「資料５」～「資料６」のとおり承認）

（５）令和６年度江差町地域公共交通活性化協議会補正予算（案）の提案について

- 事務局から「資料７」により説明。
- （※異議等なしのため、「資料７」のとおり承認）

（６）江差町地域公共交通計画における事業評価手法について

- 事務局から「資料８」により説明。
 - ・ 江差町地域公共交通計画は、持続可能な公共交通網を構築していくことを目的に令和５年に策定。
 - ・ 本計画の基本理念として「持続可能な暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとの交通」の実現に向け、計画中に４つの基本目標、１５事業(再掲含む)を設定。
 - ・ １５事業の進捗確認にむけ、１３の評価指標(再掲含む)を設定しており、本指標について、指標ごとに目標値とその目標値の把握方法を設定しており、毎年協議会の場で進捗状況を報告することとしている。
 - ・ これらの指標の評価手法として、事業の実施状況や実績、目標値の達成状況、今後の課題等を整理した「事業評価シート」を作成。
 - ・ 今後の予定として、計画変更手続きが完了したのちに、令和５年度の事業評価を実施

します。その結果について、年内に開催する本協議会で報告する。
(※異議等なしのため、「資料8」のとおり承認)

(7) 江差町地域公共交通計画の変更について

- 事務局から「資料9」により説明。
 - ・ 計画変更の背景としては、一部説明が重複してしまうが、大きく2つある。1つ目は函館バス路線「館線・稲見線・木間内線」の廃止と、それに伴う「北部乗合タクシー」の運行開始に伴う変更。もう1つは、江差マースの本格運行開始に係るフィーダー系統補助金の活用にあたり、計画中に運行方針の概要を記載する必要があることから、これを追記するもの。
 - ・ 変更箇所のすべてを説明すると長くなってしまうため、江差マースの本格運行に係る部分を抜粋して説明。
 - ・ 88 ページでは、江差町の地域公共交通の現状と将来を図で記載しているが、バス路線の廃止と北部乗合タクシーの新設について追記している。また、こちらの図にて、江差マースがフィーダー系統補助金対象路線である旨を記載している。
 - ・ 95 ページでは、江差マースの本格運行に係る運行概要を追記している。この部分については、運行方針の見直しがあった場合に随時修正していく。
 - ・ 107.108 ページで江差マースに係る評価指標を追記。評価指標1の利用者数については、令和5年度の実証運行の実績や、週3日運行になることを考慮し、1日あたり10人と設定している。
 - ・ 評価指標2の収支率について、実際に運行に要した経費に対する運賃収入状況を計算したものであり、令和5年度の実績や、今回の運行方針における想定経費や想定運賃収入を積算し、5.4%と設定。
 - ・ 評価指標3の収益循環額について、当町が包括連携協定を締結しているサツドラHDとの協定の1つである、地域還元型EZOCAによる町への還元額を設定している。江差マースを活用し、EZOCA加盟店を利用させていただくことで見込める還元額の増加分を積算し、85万円と設定している。
 - ・ 変更した計画を国に上程していくなかで、軽微な変更等が発生した場合、事務局に一任していただければと思う。

【以下、質疑等】

①-1 (小野寺委員)

- 107 ページの目標値について、1日あたりの乗車人数が10人であり、4年間同じ数値となっている。今後周知を続けていき、制度の理解度があがってくれば、もっと利用されると思っている。そういう面で物足りない数値に感じるが、江差町としてどのような目的意識で設定しているのか。

①-2 (事務局)

- 令和5年度の実績が8.2人(有償運行時)ということ、5年度から運行日数が減少してしまうという点も踏まえ、まずは10人と設定した。そのうえで周知活動を行い、まずは5年度の実績を維持し、少しでも増やしていくという意図がある。
- 運行日数をはじめとする運行方針については、来年度以降も同じものになるとは限らず、運行方針の変更があったら、その方針に合わせて目標値についても見直しをかけていく所存。
- 令和6年度のスタートとして、まずは5年度の数字をクリアして、10人という目標は達成したいと思っている。だが、そこで満足するという意識ではなく、そこからさらに上

回った実績を上げていきたいと考えている。

- 今後も運行方針の見直しはかけていくので、令和7年度以降の目標についても、新たな運行方針をもとに設定をすること含め、変更対応もしていきたい。

(「資料9」のとおり承認)

4. 閉 会